

令和5年度 第2回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和5年9月4日（木） 午後2時～午後4時30分

2 開催場所 牧之原市立図書館交流館

3 出席者

【牧之原市図書館協議会委員】

鈴木	善彦
増田	曜子
岩崎	陽子
大石	武晴
佐藤	寛
柴本	久美子
武田	てるみ
水嶋	みゆき

【事務局】

教育長	橋本	勝
教育文化部長	内山	卓也
社会教育課長	永野	智芳
図書館係長兼図書館長	八木	いづみ
主任	水野	秀信
主事	望月	安里
会計年度任用職員	芹澤	芳里

4 傍聴者 3名

5 議題

【報告事項】

改修後の榛原図書館の運営（案）について

【協議事項】

第2次牧之原市立図書館基本計画素案について

6 内 容（要点記録）

教育長挨拶

記録的な猛暑の中、涼しい場所を求めらる中で図書館は一つの候補となっている。商業施設だと落ち着いた雰囲気もあるが、図書館は読書をしたりあつという間に過ごすことができる。

読書の秋を迎えるにあたって、涼みに来るだけではなく様々なジャンルの本を手に取り活用してもらいたい。榛原図書館も来年の開館に向けて準備をしており、市内に両館が揃えば図書に触れ合う学びの機会が増えることが期待できる。

今後の図書館運営のため、本日も委員それぞれの立場から意見を交わしてもらいたい。

【報告事項】

◎事務局説明要旨

（1）改修後の榛原図書館の運営（案）について

工事は2階にあった図書館エリアはすでに改修が済み、貸会議室として利用している。現在は1階の解体工事と外のパーゴラ組み立てが進んでいる。工事のスケジュールは12月を工期として進めている。

榛原図書館の正式名称は「牧之原市立文化の森図書館」として変更を考えている。榛原文化センターが文化の拠点として存在してきたこと、本が集まる図書館を森と見立て「文化の森図書館」という名称を考えた。条例の改正を伴うため、12月以降の市議会に上程予定。

愛称は前回選定した5候補から市民投票を行い1つに絞った。投票数1,150件から最も投票数の多かった「いろ葉」に決定した。いろ葉の名称も正式名称と合わせて新しくオープンした施設に対して使用することになり、広報まきのはら10月号等で広く周知していく。

新しい図書館の開館時間や休館日は、図書交流館と同じ午前10時開館・午後7時閉館、土日祝日は午後6時閉館を考えている。開館前準備作業の増大が想定されているので、開館を1時間遅くしたい。図書館サービスは、滞在できる空間にし、文化センター内の生涯学習や庁舎との連携をはかるなど、新たなサービスを創出したい。

◎委員からの主な意見

名称について

（意見）「文化の森図書館」は良い名前だと思う。「いろ葉」も植物の葉が入っており、ぴったりとくる。施設の外にある花壇整備の話も進んでおり、図書館の雰囲気が文化の森にふさわしくなることを望む。

（意見）文化センターが改修されることで、ふさわしい名称だと思う。ネーミングに関しては小学生や園児などの方がセンスがあるように思う。

開館日・開館時間等について

(質問) 図書館アンケートでは開館日が違ったほうが良いという意見もあったと思う。館によって開館日が違えば行きやすくなると思うが、人数体制も絡めて検討されたのか。

(事務局) 本館・分館という形をとらないこともあって、同様の形態で行うことを考えている。違う開館時間を希望する声があることは承知はしており、まずは同じ開館時間で運営してみて、その後も要望が多ければまた検討したい。

(質問) 小学校などで行事があると、月曜日が子どもの代休になることが多い。その日に図書館が開館していたらありがたいのだが可能か。

(事務局) 月曜日休館としているのは他市町の状況を見て決めた経緯がある。今後休館日にイベントを充てて開館するなども含めて検討したい。

(質問) 移動図書館の巡回を火曜と水曜に実施するとのことだが、週明けは図書館の業務が集中するので、現行の職員体制では運行日の図書館業務への負荷が大きいと考える。相良・榛原間の資料の搬送は毎日実施しているのか。

(事務局) 以前から火曜と水曜に移動図書館車は巡回している。これは市内全小学校を回っていることから、小学校の年間計画の兼ね合いもあって曜日も固定している。指摘のとおり運行日の図書館業務が多くなっている。資料の搬送は利用者の利便性につながるので毎日行うことが望ましい。昨年度は概ね二日に一回運搬していた。

(質問) 改修時に取れない壁があり、孤立しがちな部屋があるという意見が出ていた。子どもや学生なども安全・安心に利用できるよう、夜間も複数名の職員体制が望ましいが、どう考えているか。また、貸会議室の管理も図書館職員が行うのか。

(事務局) まだ案の段階だが、夜間は正規職員1名、会計年度任用職員2名の計3名を考えている。貸会議室の管理は専門の人員がおり、図書館職員は補助的な業務を想定している。

(質問) 今までの協議会で施設面について委員から要望が多く出ていたと思う。工事の状況なども踏まえて中間報告などできることがあれば伺いたい。

(事務局) 現在解体工事を進めているが、中身のレイアウトについても詰めている。要望のあった収蔵冊数増については棚板の枚数を増やすことを検討している。

(意見) 花の会で花壇の整備を進めている。その中で、館内から屋外トイレが目に入るのが気になる。利用しづらく残念な風景にならないようにしてほしい。

(事務局) 確かに屋外トイレが見える位置に閲覧席があるため、設計士に共有して開館時に不備が無いよう対応していきたい。

(2) 第2回牧之原市立図書館基本計画素案について

◎事務局説明要旨

前回評価をして頂いた現在の図書館基本計画をふまえ、第2次図書館基本計画を作っている。現行の計画は両館のハード面を含めた整備の方針であった。今年度までの5年間でハード面の整備が進んだと捉え、次回は整備した図書館をどのように活用していく

かソフト面に重きを置いた計画としている。

基本理念は現行の図書館基本計画での「ささえ つくり つなぐ 牧之原市の図書館」を踏襲した。それぞれが大事な役割を持っており、同じスローガンを掲げ向かっていく。図書館基本方針では中身のソフト面に対する整備に重点を置いており、取り組み内容については管理運営8項目と図書館サービス12項目の2種類に整理した。

計画の進行管理は、図書館が施策の実施状況を点検し、図書館協議会で意見を聞き、実施に反映させる。またその内容を社会教育委員会に報告しHPなどを通して市民に公表することを考えている。

◎委員からの主な意見

(意見) 具体的な取り組みが管理運営と図書館サービスでの分け方をしているが、基本方針の3本柱に照らし合わせたときに、対応しているものがどれなのか分かりにくい。

(意見) 図書館協議会では「7つの提言」を大切にしてきた。現行の計画ではこれが組み込まれ、それが活きていると思っているが、第2次計画での反映が見られず残念。

(意見) 図書館は生涯学習の拠点であり、市民がだれでも行きたい時に行ける図書館であってほしい。交通手段がない人もアクセスしやすい仕組みにしてほしい。

(意見) 不登校など学校に行けない子どもでも行ける、学びの場であってほしい。

(意見) かつて図書館は本を借りる場所だという認識だったが、今は人の集まる場所、イベントなど楽しみのある場所と感じる。榛原でも来館者が楽しめるような仕組みを常に考えてほしい。

(意見) 中学校の学校図書館の利用率はあまり高くない。しかし資料のクリーニング活動をした年度の生徒たちは図書交流館の利用頻度が高いと感じる。今後、生徒と図書館をどうつなげるかが課題だと思う。調べ学習の連携だけでなく、もう一步踏み込んだものが欲しい。

(意見) 学校によっては図書館が遠くなる。子どもは親に送ってもらうなど必要で、距離の問題は大きくて大変である。まちづくりの部分でも関心がある。

(意見) 今回の計画案は7年間の計画であり、長いと感じる。市の計画、教育委員会の計画と合わせているようだが、4年間の計画でもよいのではないか。

(意見) 市教育振興基本計画では基本方針の指標が具体的に現状と目標値が書かれている。目標値は本計画でも取り入れた方がよいと思う。

(意見) 大きな柱の3つの基本方針は変わらないので、評価と課題の箇所は具体的に数値として見えるようにして今回の二次の計画に活かしてほしい。

(事務局) 交通アクセスに関しては市地域公共交通計画があり、交通弱者、通学通勤など様々な利用ニーズに対し交通面からどのように対応していくか示している。文化の森図書館が作られることで新たな利用が見込まれ、行きやすい交通の体系を考えるとといったように、考慮した上で交通経路が作られる。図書館がすべてを解決することは現実的ではなく、まずは利用者の受け入れなど図書館のできることを優先していきたい。

(意見) 夏休みの課題図書を借りるツアーとして複数の小学校を巡回して図書館に向かうなど、普段行けない人達向けのイベントも考えてほしい。

(意見) 小学校では公共施設の利用の学習がある。騒いだり走ったりする際の注意や利用マナーについて指導の機会が必要で、図書館の利用指導は図書館側からも積極的にできる体制をとってほしい。

(質問) ミルキーウェイスクエアのバランススクーターの乗り方の指導も図書館側が行っているのか。

(事務局) 民間側が行っている。親の目がないとエスカレーターしていくこともあり注意が必要だと感じている。

(意見) ハードルの低い図書館が売りで、居心地の良さが評価されているが、秩序との兼ね合いを考えてもらいたい。

(意見) 図書館の居心地に加え、面白さや期待できるものを文化の森図書館でも取り入れてほしい。

(事務局) 文化の森図書館では館内スペースが広くなり展示室、ギャラリーのような場所を設ける。文化センターでの生涯学習と絡めた講座やイベントの開催もできると考えており、今まで以上のわくわく感を味わえるようにしたい。

(意見) 他市の図書館でも定期的に図書館のスペースで地元の学生たちの作品を展示している。自分たちの作品があると思えば自分たちも行こうと思うし、市民の人にも知ってもらえる機会が増えるかと思う。

(質問) 7つの提言が計画の図で見当たらない点について、本文の中には重視して書かれているように思うが、事務局側から説明が欲しい。

(事務局) 現行の図書館基本計画では初めて計画を作る中で位置づけとして図の中にも入れていた。2009年に出された提言だが、込められた想いは今後も引き継いでいく。

(意見) 7つの提言はボランティアが主となって作り上げたもので、市民協働の視点でも大切にしてほしい。かつて教育委員会主導で読み聞かせボランティアが作られた経緯がある。

(質問) 計画期間の7年が長いという意見に対して、事務局説明をお願いします。

(事務局) 7年という数字は市総合計画に合わせたものである。市総合計画の実施計画などから予算付けがされることから年次に合わせた方が次のステップの計画も立てやすい。他の諸計画も市の総合計画となるべく合わせるようにしている。計画の更新時期である7年後を見据えると、建物の更新時期なども考えなくてはならず、大きな話になってくることが予想され、それまでにソフト面等をきちんと整え実績を残していくことが必要だと考えている。もし仮に7年の前で区切るとなると、3年間での計画となり、3次の計画を4年で実行することになる。3年の計画となるとすぐに期限が来てしまい、短すぎることもあって、合わせた7年での計画とした。

(質問) 計画期間を3年にする根拠とは何か。

(事務局) 市総合計画が8年間の計画であり、前期と後期で分かれている。今年が総合

計画のスタートの年であり、前期が今年から4年間である。この総合計画に図書館基本計画を合わせると、3年の計画になるが、計画をたてるだけで次に移るということになるのならば、後期の4年を足して7年としたい。途中であっても、年度ごとの見直しなど中間地点での更新などを考えたい。

(意見)教育委員会としても予算取りの面からしても総合計画と連動していた方が実施のしやすさがあり、様々な絡みがあるという事がわかった。

(事務局)市教育振興基本計画も作られたばかりであるが、教育大綱も含めて年次の変更をしている。全体を総合計画に合わせる様に調整しているところである。現時点では提案ではあるが、図書館基本計画の3年目に中間見直しを行ったらどうかと思っている。このような事も文言も入れて7年の計画としたらどうか。

(意見)図書館は教育委員会の管轄で動いているため、市の方針と教育委員会・図書館を合わせて、連動した動きをする考えであるならば良いと思う。中間見直しや毎年の評価をしてある程度の間で方針を考える考えは良いと思う。

(意見)基本理念は継承するというのだが、三本柱の点について、もう少し本文や計画の中に盛り込んでほしいという点について意見が欲しい。

(事務局)表示や見せ方を工夫することなど再考し、連動が見えるようにしたい。

(意見)1次計画と2次計画を対比すると、淡泊で具体性に欠ける印象を受けた。前回は本文だけで22ページあったところが15ページと縮小されている。具体的な記述や数値、図表等がなくなっている。図書館サービスの12項目は必須であるが、具現化したものが欲しい。

(質問)管理運営の箇所、教育委員会による直接管理という記述が無くなっている。教育委員会が責任をもって管理することの意義は大切であり、現行の計画でも議論して記述した。2次基本計画で削除した理由はなにか。

(事務局)具体性に欠けているという意見について、あくまでたたき台ということで今回提出しており、協議会での意見を基に内容を深め、ボリュームのあるものにしていきたい。教育委員会の直接管理については意図的に削除したわけではないので、表現を加える方向で検討する。

(意見)2次計画の第1章3には、「進捗の評価、意見は市教育委員会に諮り、市社会教育委員からも意見を聴取します」と記述されている。1次計画と同じように、「市社会教育委員“並びに図書館協議会”からも意見を聴取します」として頂きたい。

(意見)下田市では、図書館にアクセスしづらい市民の為に、公民館などに50冊貸し出し読める制度がある。牧之原市でも方策を検討してほしい。

(意見)移動図書館については勝間田地区に小学校以外のステーションがない。小学校以外にもステーションを作るなど見直しをしてほしい。勝間田会館などは、ゆうゆうセミナーなど文化活動に合わせた運行なども検討してほしい。

(意見)インターネットの普及が進んだことで情報社会となり、情報過多であったり誤りや偏りのある情報も多く入ってくるようになった。情報リテラシーとして子どもたち

を守り、健全に情報にふれるために図書館のできることを検討してほしい。

(意見) 第3章1基本理念について「図書館が市民のくらしをささえ、居場所としてであいをづくり、すべての人とつながっていくことを目指し」とあるが、現行の基本方針を引き継ぐとしながらも文章が変化している。理念は変化させるべきでないと思う。

(事務局) 前回の文言では「図書館が市民生活を支える知や文化の拠点であるとともに資料や情報を通して様々な形で市民が出会う場として重要な所を担う」としており、明確な意図をもって変えたわけではない。

(意見) 普遍的なものが良いのか修正していった方がよいのか、検討してほしい。

(質問) 移動図書館は火・水曜日の運行で、運転手は図書館職員なのか、また貸出等の図書館業務を行うのか。

(事務局) 図書館職員ではないため貸出はしない。図書館職員が朝から一日移動図書館の巡回に入る。小学校など利用が多いステーションは応援の職員が入る。

(意見) ステーションや運行日を増やしてもらいたい。また、文化の森図書館でも多くの利用が見込まれる。そのために、計画には具体的に書かれていないが各館の職員の充実をお願いしたい。1次計画では職員体制について、「専門的サービスを保障する人員体制の確保」を図ることの具体的記述があった。他の図書館と比較して蔵書は少ないものの来館者は多く、今後の図書館活動の発展の為に、図書館職員体制の充実を図ってほしい。

(意見) 図書館サービスの資料の継続的な収集について、10万冊以上を維持、とある。7年という長い期間での目標であるため、維持をするだけでは低いと思う。蔵書の増加は市民アンケートの意見でも上がっており、旧目標でも11万冊であった。新目標としては12万冊とするなど、数値目標の再検討を求める。

(意見) アンケートでは図書資料の新鮮さを求める意見が多かった。令和3年度実績の、県内市立図書館一人当たりの資料費の平均は205円であるが、牧之原市は117円である。この数字を参考とすると、人口43,000人に県平均の205円をかけると少なくとも880万円の資料費が求められる。単に蔵書数だけではなく、今あげた例なども参考として継続した資料購入を考えてほしい。

(意見) 現段階の基本計画は淡泊だと感じており、今回出た具体的な意見は、基本計画をより具現化してくれるものである。計画に盛り込めるものは盛り込んでほしい。

(事務局) 本日の協議会では意見を出し尽くしていない方もいると思う。会議終了後も9月中旬頃までに事務局へ意見を出してもらいたい。

以上